

一 問一 (a) 恩 (b) 昔 (c) 傷

問二 X イ Y ウ Z ア

問三 イ

問四 エ

問五 自分がしてきた仕事を認めてくれていた人がいたことを知り、落ち込んだ気持ちや不安から心が解放されるような気持ちになったということ。

問六 この話は向こうから勝手にやってきたできすぎた話ではなく、夏美が自分から動き出したことで周りが動き、自分自身でつかんだものだということ。(67字)

問七 明日が少し楽しみになるような、自分の知らない気持ちと向き合えるような、そんな本を作りたいという想い。(50字)

問八 『月のとびら』のリニューアルと夏美を重ねており、本のデザインが変わってもその内容は同じままであるように、夏美も、状況や立場が変わっても、本作りに対する思いは変わらないことを表している。

二 問一 (a) 実際 (b) 深刻 (c) 一挙

問二 イ・ウ

問三 自分の周りにいるあらゆる存在が、それぞれの論理で生きていることを尊重することで、お互いに支え合いながら全体を構成しているという考え方。(67字)

問四 ア

問五 出てきた問題に対処するだけでなく、問題が起こらないためにはどうすればいいかという根本的な解決を考えること。(53字)

問六 人間はどんな時代でもどんな人でも、無意識に、ある思い込みや価値観を通して物事や世界を見ていることを自覚し、それらを全てチェックし直して大事なことを見極めること。(80字)